真壁伝承館歴史資料館第四回企画展

新収蔵品展1

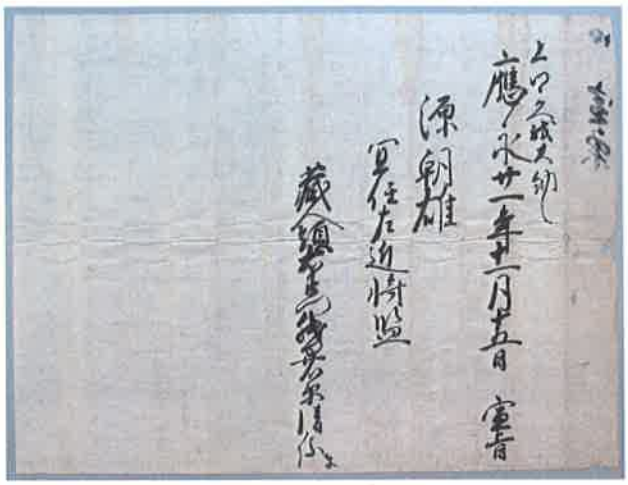
～桜川のおたから～

真壁伝承館歴史資料館
MAKABE DENSHOKAN MUSEUM

会期
平成25年7月23日
～平成26年3月16日

真壁伝承館歴史資料館及び文化財課では、市内の歴史に関する資料を収集・保存することも重要な業務としており、これまでに市内外の方々より貴重な品々を寄贈・寄託していただいています。

今回はその中で、近年に寄贈・寄託いただいた資料を中心として紹介し、身近なものを通して市内の歴史に触れていただければと思います。



1．古文書「口宣案」写（「くぜんあん」うつし）

応永 21（1414）年

口宣案とは、昔の文書様式の一つで、この文書には、源朝雄という人物を左近将監（さこんのしょうげん）という役職に任ずる、ということが書かれています。現代で言うと、人事異動や昇進の辞令のようなものです。ただし、この文書は正本ではなく、江戸時代頃の写しと思われます。

源朝雄は中世の茨城県で大きな勢力を持っていた宍戸氏の一族である真家朝雄のことで、旧八郷町の真家を本拠地としていました。また、左近将監とは天皇の住む大内裏の警護をする官職で、現場指揮官クラスの役職です。

（端裏書）
「口　宣案」

上卿久我大納言
應永廿一年十一月十五日　宣旨
源朝雄
宣任左近将監
蔵人頭右衛門督藤原済口奉

※端裏書とは裏面（折りたたんだときには表になる）に字が書かれている、ということです。
また、この古文書を書き写したときに、口宣案の「案」の字を「条」に写し間違っています。

2．古文書「譲状」（「ゆずりじょう」）

永享７（1435）年

「譲状」とは、現代の遺言状のようなもので、自分の所領や財産を譲渡するときに作成したものです。この譲状は１の古文書に出てきた源（真家）朝雄が子や妻に書き宛てたもので、「椎尾寺」「源法寺」など桜川市に関係する地名等が文中に見えます。

この頃は真壁氏が没落し、当主も行方不明となっていた時期で、真壁氏の旧領地が他の武士に与えられていたことを示す、重要な文書です。

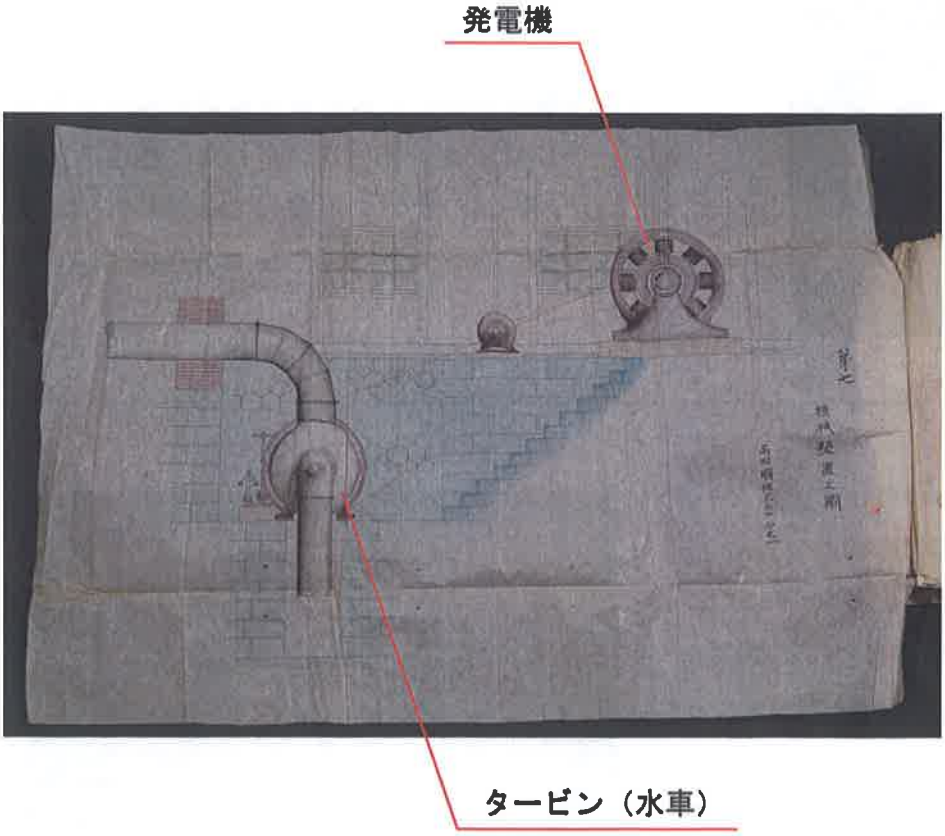
なお、文中に出てくる「千代若丸」「幸松丸」「虎寿丸」が子供の名前で、「築波女房」「一木女房土曜犬御（前）」「如意輪御（前）」が妻の名前です。

右遺跡千代若丸可令領知者也、千代若丸
無子息者、幸松丸可為遺跡也
一後家築波女房河俣郷内拾貫文可知行
也、一期之後千代若丸可知行也
一河俣郷内参貫文所一木女房土曜犬御可
知行也、一期之後千代若丸可知行
一虎寿丸自幼少椎尾寺別当為弟子入
釈門者也、源法寺安藤三郎内所譲也
　　畠一貫
　　八百　田四反
虎寿丸一期之後千代若丸可知行
一幸松丸源法寺郷内貳貫文所令譲与也
一如意輪御源法寺郷内貳貫文所可知行也
一期之後千代若丸可領也、任譲状之
旨、不可有違乱、背此状者可為不孝子
者也、仍譲状如件
永享七年乙卯三月十四日　朝雄（花押）

３．獅子頭

室町時代～江戸時代初頭

高幡地区にあった獅子頭です。本来は三匹獅子舞（ササラ）で使われていたと思われますが、もう長い間獅子舞は行われておらず、近年は台風避けの祭りとして獅子頭の前で飲食をしていたそうです。収納されていた箱の墨書によると、右から仲獅子（仲頭）、大獅子（大頭）、女獅子（女頭）と呼ばれていたようです。獅子頭とはいっても形は龍を模したもので角もあります。仲獅子は現在角が１本しかありませんが、古い写真には角が２本見えるので、本来は２本あったと思われます。
作りや形から見て古手の様相を示す獅子頭で、非常に貴重な資料と言えます。



４．真壁水力発電所関係史料

明治～大正時代

真壁町田の山口地区にあった水力発電所に関する史料です。大正５(1916) 年に完成した発電所により、真壁町内に電灯がともりました。しかし当時、電灯は大変高価なもので、一般的な石油ランプの石油代の方が安かったようです。
展示した図面にはタービン（水車）や発電機などが描かれています。

5．勲章

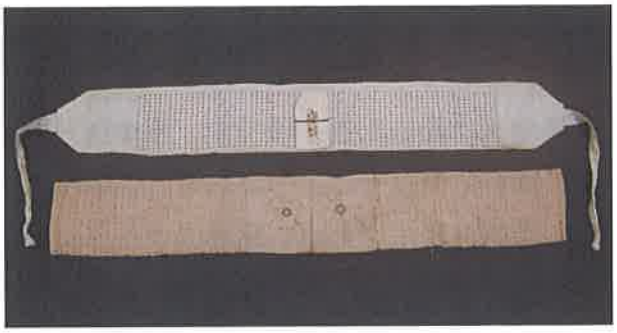
明治 37(1904) 年～昭和 20(1945) 年

従軍や武功を称えて、国から贈られました。受給者には年金が与えられるなど、経済的な恩恵を伴うものもありました。左から「明治三十七八年従軍記章」「支那事変従軍記章」「勲八等白色桐葉章」「功七級金鵄勲章」になります。

6．千人針

昭和初期

戦地へ赴く兵士の帰還を祈り、女性が一針ずつ縫いこんだ御守です。腹に巻いたり、帽子に縫いつけるなど、兵士は大切に身につけました。戦勝祈願のお守りや、死線（四銭）、苦戦（九銭）を越えるとの語呂合わせで、硬貨が縫われています。



7．戦時債権

昭和 15(1940) ～ 19(1944) 年

日中戦争開始以降、巨額の軍事費用を調達するために、多様な債権が発行されました。債権の売り出しはデパートやたばこ屋などでも行われ、ポスター、雑誌の広告等で盛んに購入が呼び掛けられました。

8．椎尾堀之内坪大當講資料（しいおほりのうちつぼだいどうこうしりょう）

弘化 5(1848) 年～平成 23(2011) 年

大當講とは、豊作、天災・疫病除け、子孫繁栄を願って行われる行事で、筑波山麓周辺の地域で特徴的に見られます。

椎尾堀之内地区では近年まで大當講が行われ、江戸時代からの記録が残されていました。

9．酒器

昭和初期

お酒を飲む猪口と徳利です。猪口には当時の真壁町内の店舗名が、徳利にはお酒の銘柄や醸造所の名前が華やかに描かれています。

10．婦人雑誌

左：「婦人倶楽部」昭和 18 年新年号

右：「婦人倶楽部」昭和 16 年新年号付録

大正 9（1920）年に創刊された、主婦を対象とした雑誌です。家庭に役立つ実用的な記事を掲載していましたが、戦争が始まると、戦時下の心得といった記事が増えてきました。

11．亀熊南館地区伊勢講史料

延享 2（1745）年～平成 22（2010）年

伊勢講とは、伊勢神宮参拝を目的として、村々で結ばれた組織のことです。みんなで参拝旅費等を出し合い、交代で参拝し、無事に戻ると祝宴が行われました。亀熊南館地区では、この伊勢講が江戸時代から最近まで行われていました。

12～15．民具

昭和初期

左から、田んぼで苗を均等に植える「田植え縄」、柏餅の皮を均一に広げる「餅伸し器」、先端を熱してアイロンとして利用する「火熨斗鏝」、粟や豆の脱粉・脱穀に用いられた「くるり棒」です。

16. 看板

昭和中期

旧真壁郵便局に置かれていた戦後の広告看板です。左は金属板に塗料で仕上げるホーロー看板、右はプラスチック看板。どちらも戦前から昭和中期まで、宣伝の主流として日本中の街角でよく見られました。

---

17. 立木拂代金取立簿

明治 14(1881) 年

猿田地区の文書で、共有財を伐採し、材木として売り払った際の帳簿です。売り払った地名、立木の料金、購入者、売り主、支払日、受取日、決算などが記されています。破損の激しい史料でしたが、寄贈者の手で修復されました。

---

18. 通帳

明治 34 年 (1901) 年

掛売り（代金後払い）が主流だった当時、集金の際の覚えとした帳簿です。ガーゼや重曹・硫酸といった医薬品の他、のりや帳面・半紙のような文具など、幅広く取り扱っていたことが窺えます。

今回展示した資料は、その殆どが個人、または地域で保管されていたものです。これらの資料は、当時の生活を今に伝えてくれる大切な文化財です。そして、こうした「おたから」とも言えるものはいろいろな場所に眠っています。

古い文書を見つけた。家から珍しいものが出てきた。そんなときは是非、わたしたち文化財課に声をお掛けください。新しい「おたから」を一緒に発見できるのを、心からお待ちしています。